

第1回適正利用・エコツーリズム検討会議における合意・課題事項

1. これまでの適正利用の検討に関して

概要：適正利用の全体の枠組みは検討できたが、個別の課題は解決できていないという課題が指摘された。

2. 検討会議の推進体制について

概要：枠組み、構成員、検討事項など、会議の推進体制について、合意を得た。課題として、これまでの検討経緯を十分踏まえること等が挙げられた。

適正利用・エコツーリズム検討会議の推進体制

課題事項

- ・これまでの検討経緯、各種制度などとの調整が必要。
- ・情報共有と合意形成だけでなく、情報発信の検討方法についても検討が必要。
情報発信に関しては、協議の混乱を避けるため、当面は本会議での検討項目としないことを会議の場で合意。

合意事項

- ・会議の枠組み、構成員、検討事項：全体課題（エコツーリズム戦略）と個別課題について合意した。
検討範囲：知床世界自然遺産地域に影響があると想定されるものを検討範囲とする。（区域外も含む）
エコツーリズムの定義：観光全体についてとりあげるのではなく、世界自然遺産地域管理計画の定義に基づき、観光の一部として捉える。

3. 会議の検討課題について

概要：全体課題・個別課題に分けた検討の進め方や、スケジュールについて合意を得た。個別の課題については、事務局提案に対し、追加項目が指摘された。

会議の検討項目

合意事項

- ・全体課題として、エコツーリズム戦略を策定する。
- ・個別課題は、優先課題を決め、全体課題と同時並行で進める。

全体課題検討の進め方

合意事項

- ・エコツーリズム戦略は骨子を1年目、2年目に内容、3年目に実施もしくは完成というスケジュールで検討を進める。

個別課題検討の進め方

課題事項

- ・優先検討課題の選定については、事務局案に追加し、以下の項目の追加が指摘された。

事務局が提示した優先課題

- ・ 羅臼湖の利用のあり方
- ・ 海域レクリエーションのあり方（ウトロ海域のケイマフリ等の海鳥と海域利用）
- ・ エコツーリズム戦略策定に係る多様な意見集約

会議において追加が指摘された優先課題

- ・ 知床連山の利用のあり方（道道の利用、硫黄山登山口の利用）
- ・ 先端部の利用のあり方（利用調整地区の導入）
- ・ カムイワッカの利用のあり方（道道の利用）
- ・ 公園全体のアクセスコントロール
- ・ 野生動物との関わり方

合意事項

- ・ 個別課題は優先課題から検討する。
- ・ 検討すべき優先課題が多い場合、事務局の処理に限界があるため、関係者が個別に部会の立ち上げを検討し、実現可能な場合は検討を行う。
- ・ 既存協議会は 1 年を目処に、本検討会議の一部として位置づけなおすことを検討し、情報の共有化を図る。

4. 個別の検討課題について

概要：優先課題としてあげられた個別検討課題に関して、検討の進め方や課題を協議した。

（事務局提案優先課題）

羅臼湖の利用のあり方

検討の進め方

- ・ 今年度新たに部会を設置し、検討を進める。
- ・ 部会では、まず羅臼湖の将来像を検討し、細かい手法を検討する。

海域レクリエーションのあり方（ウトロ海域のケイマフリ等の海鳥と海域利用）

検討の進め方

- ・ 既設のウトロ海域懇談会を個別会合と位置づけ、検討を継続する。

エコツーリズム戦略策定に係る多様な意見集約

検討の進め方

- ・ 戦略策定は全体会合で行うが、地域の意見を反映されるためワークショップを開催する。

(会議指摘による優先課題)

知床連山の利用のあり方

課題事項

- ・ 通行止めになっている道道、硫黄山登山口の利用の方向性の検討が課題。

検討の進め方

- ・ 道路管理者（北海道）が参加するカムイワッカの協議会の場を活用し、事務局で、方向性を検討する。
- ・ 道路管理上のリスク管理方針の検討が重要であり、小林委員も協議に参加する。

先端部地区の利用のあり方

課題事項

- ・ トレッカーとヒグマとの軋轢の発生等、利用の心得とフィールドハウスでの広報のみでは、適正な利用の周知は難しく、利用調整地区制度の導入も含め検討。

検討の進め方

- ・ 知床財団において、検討部会を開設することを検討する。
- ・ 間野委員が部会に参加する。

カムイワッカの利用のあり方

課題事項

- ・ 道道工事により、硫黄山登山口、カムイワッカ展望台が利用できないことも問題であり、対策の検討が必要。

検討の進め方

- ・ 道路管理者（北海道）が参加するカムイワッカの協議会の場を活用し、事務局で、方向性を検討する。

公園全体のアクセスコントロール

課題事項

- ・ 知床連山から上ホロベツ、カムイワッカにかけての全体のアクセスコントロールシステムについての検討が必要。

検討の進め方

- ・ 既存のカムイワッカ地区自動車利用適正化対策連絡協議会に関連する事項であり、新たな部会の設置は行わない。必要な場合は関係者が部会を設置する。

野生動物との関わり方

課題事項

- ・ 希少動物、野生動物との接し方をどうするかということが課題。

検討の進め方

- ・ ヒグマ保護管理方針検討会議において、議題として扱えないかを検討する。
(次回会合までに議論方法を提示する。)

5 . その他

広報に関して

課題事項

- ・五湖の利用に関して、広報が徹底しておらず、地元できちんと理解がされていない。

検討の進め方

- ・事務局において次回までに広報の方法を提示する。

資料の修正

修正事項

- ・資料 4 - 2 (全体会合で検討すべき課題の部分) の環境収容力という表現を、環境収容力および提供すべき体験の思想、哲学あるいはデザインというような文言が適切では。

対応

- ・事務局としては、適正な利用に関して、自然生態系の観点だけでなく、自然体験の質の双方からなっていると考えている。必要であれば資料を再調整する。

その他確認事項

確認事項

- ・羅臼湖の路傍駐車は法的に違法なのかを確認したい。

対応

- ・事務局で確認し、回答する。